

物流情報学研究科

○ディプロマポリシー

物流情報学研究科では、物流情報に関する分野の専門的知識を有する高度職業人、または創造性豊かな研究者の養成を目指しています。

修士課程では、指導教員の指導する専攻科目の演習を 2 年間 (8 単位) と指導教員の指示する専攻科目を含む講義科目 (特論) を 24 単位以上履修し、指導教員の指導の下で修士論文を作成し、論文審査を受けます。(1) 論文審査は主査 1 名、副査 2 名によって行われ、審査に合格し、物流情報学研究科委員会の承認を得て修士 (物流情報学) の学位が授与されます。(2) 論文審査については、2 年次の夏に実施される公開の修士論文中間報告会には修士論文中間概要書と論文本体を提出します。翌 2 月に行われる修士論文最終報告会では修士論文結果概要書と論文本体を提出し、発表し、最終報告会後に行われる 3 名の審査員による口頭試問を受けます。(3) 口頭試問において審査委員からの質問・疑問があった場合には、まず口頭で説明し、その後「論文修正指示書」よりの論文の修正が指示されることがあります。(4) 論文には特に独自性、新規性、創造性が求められています。

博士後期課程では、指導教員が指導する専攻科目の演習 (研究指導) を 3 年間 (12 単位) と指導教員が指示する講義科目 (特殊研究) 2 科目 (8 単位) を履修し、在学期間中に博士論文 (学位論文) を提出し、その審査に合格すると博士 (物流情報学) の学位が授与されます。博士論文についても、修士論文と同様、公開の中間報告会および最終報告会で報告することが条件となります。論文の審査については、(1) 研究の目的・対象・方法等の明確さ、(2) 研究の独創性、(3) 当該分野の研究に対する貢献と位置づけ、(4) 文献参照範囲の適切さ、(5) 論旨の明確さと一貫性、(6) 文章の明瞭さ、(7) 学術論文としての形式要件などについて 3 名の審査員によって評価されます。その後、博士後期課程担当教員の 3 分の 2 以上が出席する委員会における投票で、出席者の 3 分の 2 以上の賛成を得る必要があります。

○カリキュラムポリシー

本研究科は、「物を生産し消費者へ届けことが使命の製造業や流通業にとって、物流は必要不可欠な機能である。経済のグローバル化により市場競争がますます激化しつつあるが、企業の優位性を持続していくために、従来の物流の領域を越え、生産をうまくコントロールし、欲する消費者へ過不足なく提供する仕組み、いわゆるロジスティクスの効果的な実現が極めて重要な課題である。加えて、地球温暖化防止の観点から資源の再利用、環境問題への配慮も重要性を増している。課題の解決には、情報の蓄積・共有、やり取りなどが伴い、進展著しい情報ネットワーク技術の積極的な活用が求められる。」(2012 年度『大学院履修要綱』) という課題に対応できる人材養成を目指しており、そのために必要な授業科目を設置しています。

また、平成 20 年度から大学院物流情報学研究科では、産学連携による実践的なロジスティクスを担う人材育成を目的とした「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム」の検討を開始しました。本プログラムは、経済産業省の平成 20 年度「産学連携人材育成事業 (サービス人材分野)」に採択された事業です。この検討結果を踏まえて、大学院物流情報学研究科では、産学連携のカリキュラムが平成 22 年 4 月から正式にスタートしました。企業の方による講義、企業を訪問して現場を実感する講義、そして企

現場で実際の改善を考える演習と、多様な産学連携の科目も設けられています。修士課程においては、ロジスティクスを柱として、物流履修モデルと情報履修モデルを設けています。

- ・物流履修モデル 物流、ロジスティクスの高度で専門的な知識を中心に学ぶ履修モデルで、企業のロジスティクスシステムに関連する科目を中心に構成されています。また、近年は、環境問題への配慮も重要性を増しており、社会的な問題への対応の視点に関する科目も設置しています。一方、ロジスティクスは極めて実践的な学問であり、企業の実際の動向の分析も重要である。企業のロジスティクス担当者を招いての講義、企業訪問による実践系の科目も設置しています。
- ・情報履修モデル ロジスティクスにおいて、情報システムをいかに応用するかという高度で専門的な知識を中心に学ぶ履修モデルで、情報及び情報通信システムに関連する科目を中心に構成されています。また、ロジスティクスに不可欠な定量的な解析に関する科目を設置しています。さらに、ロジスティクスの実際の現場を定量的に分析し、改善に結び付けていく科目も設置しています。

博士後期課程においては、物流学関連科目と情報学関連科目から 8 単位以上、及び専攻科目の研究指導を原則 3 年次にわたり 1 年次 4 単位で合計 12 単位、全体で 20 単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することによって達成されなければならないとしています。なお、博士課程の特殊研究については、必修・選択の区別はありませんが、いずれも指導教員の指示する科目を履修するものとされ、専攻、論文テーマと関連の深い科目が履修されるようになっています。